



## 「KY 運転 10 則」

第1則 自分自身に内在する危険（悪い態度や悪いクセなど）を予測する。

第2則 赤信号でも停止しない車があることを予測する。

第3則 交差点で変則的に曲がる車があることを予測する。

第4則 前車が予告なしで突然曲がったり停車することを予測する。

第5則 停止場所で一時停止しない車があることを予測する。

第6則 路面の状態によって停止距離が変わることを予測する。

第7則 狭い道路では子供や自転車等が飛び出してくることを予測する。

第8則 車間距離を極端に詰めたときの危険を予測する。

第9則 相手の車が譲り合ってくれないことを予測する。

第10則 自分の危険予測や安全態度が道路環境に合致しているか予測する。

見直そう「ながら運転」運転中の判断ミス・判断遅れを防止しよう

運転中にハンズフリーでの会話も禁止する主な理由は、イヤホンで耳が塞がって周りの音を聞く妨げになること、また電話での会話によって「運転への注意力が落ちる」ためです。

▼「運転への注意力が落ちる」とは

理由は人間は二つのことを同時に判断できないため、判断ミスや遅れが生じます。

それは、電話で会話をしながらの運転中に右折する交差点にさしかかった時に、事務所から「〇時に△△社に寄れますか？」と聞かれて「可能か否か」考えながら、右に横断歩道を渡りそうな人を見て「自車が先に横断歩道を横切れるか、待つべきか」を「同時に判断できない」ということです。一方を後に判断することになり、判断が遅れたり間違ったりします。

同乗者には運転状況がわかるので返事を待たせることができますが、電話は通話相手に運転状況がわからず、また運転者は「早く返事をしなければ」と焦りも生じます。

会話は車を安全な場所に停めて行うことや運転者への連絡は「メールや着信だけ入れて折り返しの電話を待つ」など運用を整理しましょう。



周囲の確認 (現場では下記重点4項目を確認しましょう)

**現場作業での重点4項目(現場作業のあるべき姿)**

- ① 工事開始前に全員で作業現場を点検すること。 2012.6.23  
千葉重大災害の再発防止のための視点追記
  - 不安全な状態があれば養生してから作業を始める。  
(可動物、リンク、重量物は必ず固定してから作業を始める。)
- ② 作業中は常に安全意識を持ち続けること。
  - 工事の安全最優先は、自分で確保しなければならない。
  - 一人ひとりがその時の状況を把握しながら、考えて、安全に仕事を進める。
  - 共同作業においては同僚をよく注意して観察し、相互啓発をこまめに行う。
- ③ 作業指揮者は「**一步離れて**」、仲間の安全を見る。
  - 作業指揮者は、安全指導と作業指揮が本来の職務である。
  - 共同作業者を良く観て、注意・指導する。
  - 現場の状況を観ると同時に人(共同作業者)を良く観る。
  - 落ち着いて観れるだけのゆとりと余裕をもって作業する。
- ④ 用事の無いときは現物から離れる。
  - 危険な場所に近づかない。
  - 指示がない場合、勝手に手出しをしない。

**重点4項目を守って、  
作業行動の変革を行う。**

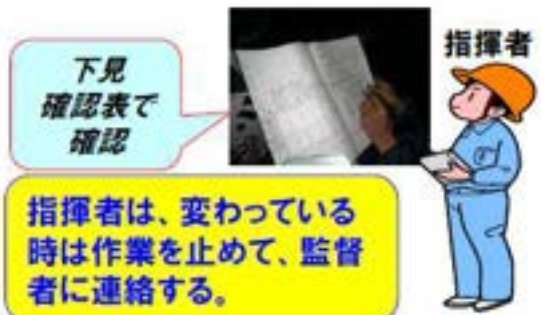
作業のリスクアセスメントを進めよう！！

**1. 『工事開始前に全員で作業現場を点検』する**

指揮者は、全員を集め作業手順の説明をする



指揮者は、下見時と現場の状況が変わっていないか確認する



指揮者は、全員で作業場所に危ないところがないか点検する



全員で安全養生してから作業を開始する





## 2. 『作業中は常に安全意識を持ち続ける』

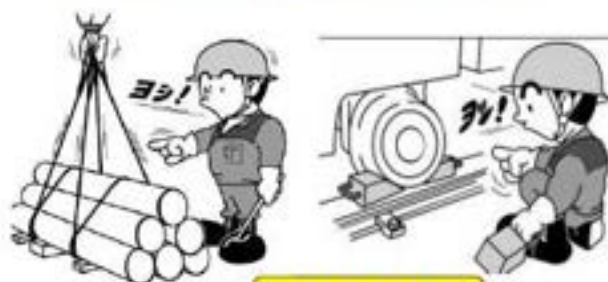
一仕事、一片付けをする



乱雑な現場は危険がいっぱい！

共同作業者は同僚に絶えず声掛けをし、互いの呼吸を合わせる

指差呼称で安全を確認をする



指差呼称！

危険と思ったら遠慮なく注意する（たとえ、先輩であっても）



声掛けを！



相互注意を！

## 3. 作業指揮者は『一步離れて』、仲間の安全を見る

工事着工前に、全員で大事な場面（特に危険な作業）はどこかを決める



大事な場面の決定

監督者は、大事な場面では「指揮者が一步離れられるよう」要員配置する



大事な場面では +1名

指揮者は、大事な場面では仕事を止めて、仲間を良く観る



指揮者の職務は安全指導！

大事な場面では、あせらず、落ち着いて指示する





## 4. 『用事のないときは現場から離れる』

作業者は、指揮者の指示なしで勝手に作業をしない



作業者は、指揮者の指示なく勝手に危険な場所へ近づかない



作業者は、指示された自分の仕事が終わったら、指揮者へ報告し、次の指示をまつ

指揮者は、作業者が手待ちになったら、安全な場所で待機させる



# STOP！熱中症

## クールワークキャンペーン

職場での熱中症により毎年約20人が亡くなり、約800人が4日以上仕事を休んでいます。



労働災害防止キャラクター

プーイカン吉



キャンペーン  
実施要項

準備

キャンペーン期間

4月

5月

6月

7月

8月

9月

重点取組

### 準備期間（4月）にすべきこと

きちんと実施されているかを確認し、チェックしましょう

労働衛生管理体制の確立	事業場ごとに熱中症予防管理者を選任し熱中症予防の責任体制を確立
暑さ指数の把握の準備	JIS規格に適合した暑さ指数計を準備し、点検
作業計画の策定	暑さ指数に応じた休憩時間の確保、作業中止に関する事項を含めた作業計画を策定
設備対策の検討	暑さ指数低減のため簡易な屋根、通風または冷房設備、散水設備の設置を検討
休憩場所の確保の検討	冷房を備えた休憩場所や涼しい休憩場所の確保を検討
服装の検討	透湿性と通気性の良い服装を準備、送風や送水により身体を冷却する機能をもつ服の着用も検討
緊急時の対応の事前確認	緊急時の対応を確認し、労働者に周知
教育研修の実施	管理者、労働者に対する教育を実施

【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】関係省庁（予定）



# キャンペーン期間（5月～9月）にすべきこと

STEP  
1

## 暑さ指数の把握と評価

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握  
地域を代表する一般的な暑さ指数（環境省）を参考とすることも有効



環境省  
熱中症予防情報  
サイト

STEP  
2

## 測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底

暑さ指数の低減	準備期間に検討した設備対策を実施
休憩場所の整備	準備期間に検討した休憩場所を設置
服装	準備期間に検討した服装を着用
作業時間の短縮	作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、作業中止
暑熱順化への対応	熱に慣らすため、7日以上かけて作業時間の調整 新規入職者や休み明け労働者は別途調整することに注意
水分・塩分の摂取	水分と塩分を定期的に摂取（水分等を携行させる等を考慮）
プレクーリング	作業開始前や休憩時間中に深部体温を低減
健康診断結果に基づく対応	次の疾病を持った方には医師等の意見を踏まえ配慮 糖尿病、 高血圧症、 心疾患、 腎不全、 精神・神経 関係の疾患、 広範囲の皮膚疾患、 感冒、 下痢
日常の健康管理	当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを指導し、作業開始前に確認
作業中の労働者の健康状態の確認	巡視を頻繁に行い声をかける、「バディ」を組ませる等労働者にお互いの健康状態を留意するよう指導
異常時の措置	少しでも本人や周りが異変を感じたら、必ず一旦作業を離れ、病院に搬送する（症状に応じて救急隊を要請）などを措置 <b>全身を濡らして送風することなどにより体温を低減</b> 一人きりにしない

# 重点取組期間（7月）にすべきこと

暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加

暑さ指数に応じた作業の中断等を徹底









水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底

作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加

熱中症のリスクが高まっていることを含め教育を実施

**体調不良の者に異常を認めたときは、躊躇することなく救急隊を要請**

# 熱中症警戒レベルの行動基準

WBGT	21℃以上 25℃未満	25℃以上 28℃未満	28℃以上 31℃未満	31℃以上 33℃未満	33℃以上 35℃未満	35℃以上
熱中症 警戒 レベル						
	注意！	警戒！	嚴重警戒！	危険！	熱中症 警戒アラート	熱中症特別 警戒アラート
 水分塩分補給	1回以上/ 60分	1回以上/ 60分	1回以上/ 45分	1回以上/ 30分	炎天下・風通しの悪い場所 などリスクの高い場所では  <u>個別に作業調整</u> <u>場合によっては延期も検討</u>	
 休憩 クールダウン	午前1回 午後1回	午前1回 午後1回	午前2回 午後2回	午前3回 午後3回		

休憩時間  
の目安

午前10時／午後3時

午前10・11時  
午後3・4時

午前9・10・11時  
午後2・3・4時

## しっかり休憩、しっかり水分・塩分補給



# 2024年度熱中症対策重点強化事項

## 熱中症の疑いによる病院搬送までの流れの確認

熱中症は初期症状段階で対応すれば重症化リスクが下がります。**初期症状が出たらすぐに休憩させれる体制を整え、病院で診察する際の注意事項も確認してください。**

### ・熱中症が疑われる主な症状



### ・対応と注意事項

#### 病院で診察を受ける場合

- ・現状の症状だけでなく、**前日の体調や、高血圧や糖尿病などの持病について医師に伝える。**  
※伝えないと熱中症によるものではなかった場合に正しい診断を受けられない可能性がある為
- ・点滴等を受けても**翌日回復しない場合、病院を変えるなど再度診断する。**  
※別の病状である可能もある為

#### 診察して帰宅後又は病院に行かず様子を見る場合

- ・帰宅後20時頃等、時間を決めてに**事業主が体調不良者の安否を確認し、作業所に報告する。**

症状が疑われる場合の措置と救急車要請のガイドライン

**①** 症状が疑われる  
**問いかけし、意識確認**  
どのような症状？自分の名前は？  
いつから具合が悪い？

NO

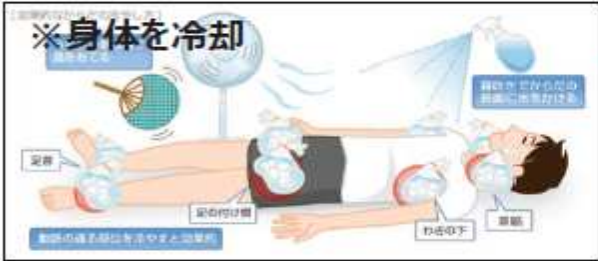
・意識がない  
・呼びかけに応じない  
・全身が痛い・けいれん

救急車要請



YES

・涼しい環境で安静  
・脱衣冷却(※右図)  
・体温計測



必ず本人に付き添う！

NO

**②** **自力で水分補給**  
(★オススメは、OS-1)

・摂取できない  
吐き気、嘔吐



YES

**③** **回復したか**

NO

・回復しない  
・体温が高い  
・気持ち悪い、頭痛



熱中症の症状がでて、措置をして30分たっても回復しなければ医療機関へ搬送しましょう。